

# 喜捨

断捨離をされている方が時々おられます。この時の断捨離の「捨」は捨てる

と言う意味で使います。

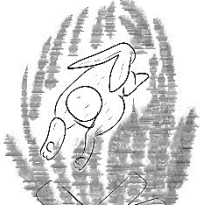
もうひとつ「捨」には使い方がありまして、「こだわらない」という意味があるのです。今回ご紹介の「喜捨」は、利他の心を四種に分けた四無量心のうち「喜」と「捨」が組み合わさったものです。四無量心とは、

慈：慈しむこと 悲：苦を抜くこと 喜：妬まない捨：好き嫌いをしない

「喜捨」は他者の幸せをうらやまずにこころから喜び、他者を差別せずに接することを指します。

イスラム教にも「喜捨」の制度があります。収入の何%を貧しい人々に寄付をする制度です。ただし、これはあくまで義務です。

比べてどうこうという話ではありませんが、仏教では、お釈迦様の前世の物語にたくさん「喜捨」が記されています。お釈迦様が兔の時、老人を助けるため火に



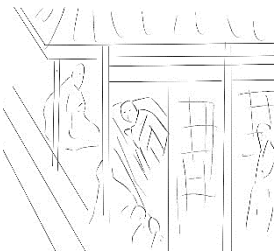
飛び込み食べさせた等、喜んで身を捧げているのです。この心は自発的に行うものです。



子供の遠足の目標「ルールを守る」  
違うノールールは目標  
達成の手段なめた。

## こんなところに 仏教用語

身近な仏教用語を紹介しています。



無智の輩に同じうして、智者のふるま  
いをせずしてただ一向に念仏すべし。  
念仏のみ教えは、賢くなって往く道では  
なく、良人になって往く道ではないのです。

# 起請

妻の実家は浄土宗のお檀家さんです。法事でお参りすると、浄土宗のお勤めがなさ



れます。そういう時「浄土宗はこういうお勤めをするんだ、これを讀むんだ」と興味津々でお参りをさせて頂きます。最後に讀まれたのは一枚起請文。神仏の前で誓い事をするを「起請」といい、法然聖人の遺言書を「一枚起請文」と言います。

唐土我が朝に諸々の知者たちの沙汰し申さるる観念の念仏にも非ず。また学問をして 念の心を悟りて申す念仏にも非ず。ただ往生極樂の為には南無阿弥陀仏と申して疑いなく往生するぞと思いとりて申すほかには、別の子細候わず。但し三心四修と申すことの候は、皆決定して南無阿弥陀仏にて往生するぞと、思ううちにこもり候也。此外に奥深きことを存せば、二尊のあわれみにはずれ、本願にもれ候べし。念仏を信ぜん人はたとい一代の法をよく、学すとも、一文不知の愚鈍の身になして、尼入道の